



2022年 7月 8日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 九州労組第 31 回定期大会

# 難局を乗り越え、明るい未来を創る



J R 九州労組は7月6日、北九州市内において第31回定期大会を開催した。代議員ら総勢約100名出席のもと、スローガンに「協働・創造・前進」を掲げ、2022年度の運動方針をはじめ、当面する課題の解決にむけ、全員が一丸となって取り組む決意を共有した。

来賓として、連合福岡から藤田桂三会長、J R 連合から政所大祐事務局長、鎗光俊勝労働政策局長が出席。また、団長の松尾哲也氏（大牟田市議会議員）をはじめとするJ R 九州労組議員団会議も激励に訪れた。さらには、7月10日に投開票を迎える第26回参議院議員選挙において比例区重点候補である川合孝典参議院議員からオンラインによる挨拶、選挙区重点候補である古賀之士参議院議員からはビデオメッセージが寄せられた。

冒頭挨拶で芦原秀己中央執行委員長（J R 連合副会長）は、①安全確立、②組織強化・拡大、③労働条件改善について所信を述べるとともに、急速に会社経営の変革が進展する今こそ、労働組合の役割と意義を発揮し、時代に見合った労働運動を創りあげ、山積する様々な課題の解決にむけ、既存の概念にとらわれることなく積極果敢に取り組む決意を述べた。



また、来賓として挨拶に立った政所事務局長は、2年半に亘るコロナ禍によりJ R 産業が疲弊し、離職者が増加する現状に言及したうえで、サービス連合や航空連合と展開する3産別共同行動の振り返りと展望に触れつつ、J R 連合結成30年の節目となる本年を次代の起点に据え、J R 産業の更なる発展にむけて責任ある運動を力強く推進していく決意を述べた。さらにその後も、安全確立、組織強化・拡大、政策課題等の主要課題について課題認識と基調となる考え方を提起した。

議事では2021年度活動経過の報告後に、2022年度運動方針が提起され、17名の代議員から「効率化施策をはじめとする業務課題」「車掌職の将来展望」「若手・中堅社員の離職」「出向組合員の世話役活動」「地域社員・嘱託再雇用社員の労働条件」「人事・賃金制度の見直し」「政治・政策活動」「青・女活動の展望」「レク活動」等について発言があった。その後、執行部答弁及び吉田祥司書記長の総括答弁を経てすべての議案が満場一致で採択された。最後に芦原中央執行委員長の団結ガンバローで締めくくった。

